

株価指数先物の取引ルール

1. 取引要項
 - ・損益計算例
2. 取引時間・営業時間等について
3. 注文の種類・約定条件・有効期限・注文方法の種類
4. 大阪取引所の諸ルールについて
 - ・制限値幅
 - ・即時約定可能値幅(DCB 幅)
 - ・取引規制
5. 証拠金の計算ルールについて

2024年02月

第一プレミア証券株式会社

本書面は、当社がお客様に提供する株価指数先物取引のルールを説明した書面です。株価指数先物取引は、相場の変動幅が小さくても取引額全体では、相応の変動(利益又は損失)が生ずるハイリスク・ハイリターン取引です。ご契約前に、「契約締結前交付書面」を熟読のうえ、取引の仕組みやリスク等を十分にご理解のうえ、ご不明な点があれば、必ずご確認いただきますよう、お願い申し上げます。

1. 取引要項

当社が取扱う株価指数先物取引は、大阪取引所に上場されている「日経225先物」と「日経225ミニ(mini)」です。「日経225ミニ」は、取引単位や取引証拠金を「日経225先物」の10分の1にした商品です。「日経225先物」が「ラージ」と呼ばれるのに対し、「日経225ミニ」は「ミニ(mini)」と呼ばれています。

	日経225先物(ラージ)	日経225先物ミニ
取引単位(枚)	日経225の値段×1000倍	日経225の値段×100倍(ラージの10分の1)
値段の刻み	10円	5円
限月(※1)	四半期限月(最長8年) 6・12月限:直近の16限月 3・9月限:直近の3限月	1. 四半期限月(最長5年) 6・12月限:直近の10限月 3・9月限:直近の3限月 2. その他の限月(最長5か月) 直近の3限月
取引最終日	各限月の第2金曜日の前日(※2)	
決済方法	① 転売又は買戻しによる決済(取引期間中の反対売買) ② (最終決済)各限月の第2金曜日にSQ値(※3)で決済	

(※1)株価指数先物は、取引できる期限が決まっています。満期日を限月(げんげつ)と呼び、各限月の第2金曜日(満期日)の前日までしか取引できません。

(※2)休業日に当たる場合は、順次繰り上げとなります。

(※3)スペシャル・クォーテーションの略で、満期日の決済に用いられる最終清算数値のことです。取引最終日までに反対売買で決済しない場合は、満期日にSQ値で自動的に決済され損益が確定します。

◎損益計算例(日経225ミニ) ※計算例の損益に取引手数料は考慮されていません。

「買い」から取引を始めた場合

(上昇例) 値上がりを期待して、日経225ミニを22,000円で10枚買い、価格が上昇して22,500円で転売した。

$$(22,500 \text{ 円} - 22,000 \text{ 円}) \times 100 \text{ 倍} \times 10 \text{ 枚} = 50 \text{ 万円(利益)}$$

(下落例) 値上がりを期待して、日経225ミニを22,000円で10枚買い、価格が下落して21,500円で転売した。

$$(21,500 \text{ 円} - 22,000 \text{ 円}) \times 100 \text{ 倍} \times 10 \text{ 枚} = -50 \text{ 万円(損失)}$$

「売り」から取引を始めた場合

(上昇例) 値下がりを期待して、日経225ミニを22,000円で10枚売り、価格が上昇して22,500円で買戻した。

$$(22,000 \text{ 円} - 22,500 \text{ 円}) \times 100 \text{ 倍} \times 10 \text{ 枚} = -50 \text{ 万円(損失)}$$

(下落例) 値下がりを期待して、日経225ミニを22,000円で10枚売り、価格が下落して21,500円で買戻した。

$$(22,000 \text{ 円} - 21,500 \text{ 円}) \times 100 \text{ 倍} \times 10 \text{ 枚} = 50 \text{ 万円(利益)}$$

2. 取引時間・営業時間等について

■取引時間(大阪取引所)

* 計算区域は、夜間立会から始まり、日中立会終了までとなります。

立会区分	時間帯	注文受付状況
夜間立会	16:00～16:15	予約注文受付 * 日次繰越処理の状況により、開始時間が前後することがあります。
	16:15～16:29	プレ・オープニング注文受付
	16:30～翌日 5:55	ザラバ(レギュラーセッション)
	5:55～6:00	プレ・クロージング注文受付
	6:00	引板合わせ
日中立会	5:30～8:00	予約注文受付 * 処理状況により、開始時間が前後することがあります。
	8:00～8:45	プレ・オープニング注文受付
	8:45～15:10	ザラバ(レギュラーセッション)
	15:10～15:15	プレ・クロージング注文受付
	15:15	引板合わせ

■ノンキャンセル・ピリオドについて

板寄せ直前の注文訂正・取消しによる価格変動を防止するため、立会取引の寄付き及び引け前に、訂正・取消注文を原則として受け付けない時間帯(ノンキャンセル・ピリオド)があります。ノンキャンセル・ピリオドの対象時間帯は以下のとおりです。

対象時間帯	① 日中立会と夜間立会の寄付き前 1 分間(8:44～8:45、16:29～16:30) ② 夜間立会の引け前 1 分前(5:59～6:00)
-------	--

■営業時間(営業日)

・対面(電話)での受注(※1) 8:00～18:00

・取引システムでの受注(※2) 24 時間(日次繰越処理、メンテナンス時間を除く)

(※1) お客様のご要望により、上記、営業時間外において担当営業員との対面取引も可能です。この場合、お客様から時間外の対面取引を行いたい旨のお申出が必要になります。

(※2) パソコン及びスマホアプリでのご提供になりますが、スマホアプリは一部ご利用できない機能があります。なお、日中立会終了後から 16 時 05 分頃の間の日次繰越処理があるほか、臨時(週末を含む)でメンテナンス作業を行うことがあります。

第一プレミア証券株式会社 電話 03-6778-8700
ご注文・取引状況のご確認は、弊社担当者、もしくは業務部まで

3. 注文の種類・約定条件・有効期限・注文方法の種類

■ 注文の種類

注文の種類	概要
指値注文	価格の限度を指定して発注し、指定した価格又はそれより有利な価格で約定する注文。注文の有効期限までに希望価格に達しなかった場合、注文は不成立となります。
成行注文	価格の限度を指定せずに発注し、最良の売呼値又は買呼値と順次対当する注文。 (注)成行注文は、未執行数量を注文板に残すことはできません。未執行数量は必ず失効します。
引指注文	引板合わせにおいて、指値として発注される注文です。
引成注文	引板合わせにおいて、成行として発注される注文です。
ストップオーダー(SO) +成行注文(※1)	指定価格に達すると成行注文が執行され、「買い注文」であれば、指定価格より高くなったら買い、「売り注文」であれば、指定価格より安くなったら売り、というように通常の指値注文とは逆に指定します。 (注)状況により、指定価格より不利な価格で成立する場合、また、注文が成立しない場合があります。
ストップオーダー(SO) +指値注文(※1)	指定価格に達すると指値注文が執行され、「買い注文」であれば、指定価格より高くなったら買い、「売り注文」であれば、指定価格より安くなったら売り、というように通常の指値注文とは逆に指定します。 (注)ストップオーダー(SO)+成行とストップオーダー(SO)+指値の違いは、SO+成行は指定価格に到達すると成行注文になるのに対し、SO+指値は、指定価格に到達すると指値注文になるところが異なります。

(※1)ストップオーダーは取引所で受け付けず、当社システム内での待機注文となります。指定価格(トリガー)はシステム上で監視するため、全ての値段を監視できない場合があります。相場変動が激しいとき等は、意図した注文が発動されないリスクがあります。

■ 約定条件

Fill and Store	FaS	約定できる数量は約定し、残枚数は板に残る
Fill and Kill	FaK	約定できる数量は約定し、残枚数はキャンセルされる
Fill or Kill	FoK	全量約定するか、全量約定できない場合はキャンセルされる

■ 注文の有効期限

最長 1 年後までの日付の指定が可能です。

(注)約定条件及び注文の有効期限は、注文を入力する時間帯、また、選択した注文の種類によって、選択できないことがあります。

■ 注文方法の種類

注文の種類	概要
通常注文	売注文若しくは買注文を指値注文、成行注文で出す注文となります。
ストップオーダー	発注する際にその注文が有効となる(コンバートする)条件を指定して発注する注文でコンバートする条件を満たした場合に指定した注文が有効になります。
IFD注文 (イフダン注文)	If 注文(成行及び指値)とその If 注文が成立したとき初めて有効となる Done 注文(成行及び指値)を2つあわせて注文を発注する方法です。それぞれの注文について、執行条件や有効期限などが設定できます。
IFO注文 (イフダンオーシーオー注文)	If Done と OCO 注文(利益となる指定(リミット)と、損切となる指定(ストップ)注文を同時に出し、どちらか一方が成立した場合、もう一方の注文は自動的に取消される注文)を組合わせた注文方法で、If 注文が成立したときに有効となる Done 注文を OCO 注文の形で発注します。利益となる指定値段及び損切となる指定値段をシステム上で監視を行い、発注条件を満たした場合に成行 Fak 注文で取引所に発注します。 ご注意※ 発注条件を満たした場合に成行 Fak 注文で取引所に発注しますので、状況によっては不利な値段で成立する場合があります。
TS注文 (トレイリングストップ注文)	発注時点の現在値を最良値として、値段の上昇・下降に合わせて最良値をシステム上で監視・更新します。指定した値幅以上の不利な値段となった場合に成行 Fak 注文で取引所に発注します。 ご注意※ 発注条件を満たした場合に成行 Fak 注文で取引所に発注しますので、状況によっては不利な値段で成立する場合があります。
IFTS注文	イフダン注文とトレイリングストップ注文を組み合わせたものになります。

4. 大阪取引所の諸ルールについて

■制限値幅

過度の値動きを抑制する観点から、呼値の可能な範囲を一定の値幅内に制限する制度を導入しております。下表のとおり、サーキットブレーカー(CB)※発動前の制限値幅は8%で、CB発動に応じて1取引日中に同一方向に2段階拡大します。

商品	通常時値幅制限	第一次拡大時 制限値幅(CB)	第二次拡大時 制限値幅(CB)
株価指数先物取引	8%	12%	16%

※サーキットブレーカー(CB)とは、相場が急変動した際、市場参加者の不安心理を鎮め、冷静な投資判断を促すことを目的とした制度で、取引所が一定のルールに基づいて発動する、取引の一時中断措置です。

■即時約定可能値幅(DCB幅)

大阪取引所では、誤発注等による価格急変の防止の観点から、直前の基準となる値段(DCB基準値段※)から所定の値幅(DCB値幅)を超える約定が発生する注文が発注された場合に、取引の一時中断を行う制度です。

商品	即時約定可能値幅	中断時間
株価指数先物取引	オープニング・オークション時は上下3.0%	最低30秒(継続してDCBが発動される場合は、30秒ずつ延長)
	ザラバ時は上下0.8%	最低30秒(継続してDCBが発動される場合は、30秒ずつ延長)
	クロージング・オークション時は上下1.5%	クロージング・オークションにおいて、直前のDCB基準値段からDCB値幅を超える場合は約定しません

※原則として、立ち合いにおける直前の約定値段又は、直近の最優先買呼値と最優先売呼値の仲値になります。

(注)DCB幅に基づく売買の一時中断は、現物市場の特別気配に当たる制度であり、制限値幅及びサーキットブレーカー制度に基づく売買中断措置とは異なります。

■取引規制

大阪取引所では、市場の動向に応じて取引規制を行うことがあります。主な取引規制は次のとおりです。こうした取引規制は、定期的又は臨時で見直されることがあります。詳しくは、取引所のホームページをご参照ください。

- (1) 制限値幅の縮小
- (2) 証拠金の差し入れ日時又は預託日時の繰上げ
- (3) 証拠金額の引上げ
- (4) 証拠金の有価証券等による代用の制限
- (5) 証拠金の代用有価証券等の掛目の引下げ
- (6) 先物・オプション取引の制限又は禁止
- (7) 建玉制限
- (8) 一時中断措置(サーキットブレーカー制度)

5. 証拠金の計算ルールについて

■ 証拠金所要額について

当社の先物・オプション取引に係る証拠金額は、株式会社日本証券クリアリング機構（JSCC）が VaR 方式により算出する証拠金額の最大値を上回るよう当社が定める額とし、同一商品の両建て（異限月を含む）の場合には片建枚数の多い方が証拠金の計算の対象とします。証拠金額は毎週最終営業日に公表し、翌週第一営業日の日中立会終了後より反映いたします。ただし、市場の状況が急変した場合等で、VaR 方式により算出する証拠金額の最大値を下回った場合には証拠金額の見直しを行い、見直した日の日中立会終了後より反映いたします。

※VaR (Value at Risk) 方式とは

VaR 方式とは、Value at Risk 方式の略であり、特定のポジションを一定期間保有すると仮定した場合において、将来の価格変動により一定の確率の範囲内で予想される損失をカバーする額（想定損失相当額）を計算する方法です。VaR 証拠金は、限月ごと、売り買いごとに計算、毎営業日見直しが行われるため、リスク管理の高度化が図られます。

証拠金所要額（委託者必要証拠金額） = 当社が定める証拠金額×銘柄毎建玉枚数※

※（同一商品の売建玉と買建玉を保有している場合はどちらか多い方の建玉枚数）

■ 受入証拠金の総額の計算式

受入証拠金総額 = 現金(差入証拠金) + 先物取引未清算決済代金(※1) + 評価損益(値洗い損益)(※2)

現金授受予定額

(※1)先物取引の決済(転売または買戻)は完了しているが、受渡が到来していない決済損益に取引手数料が加算されている金額です。お客様の Web 画面では、「差引損益金本日合計」で表示されています。「差引損益金本日合計」は、日中立会終了後の日次繰越処理以降、「現金」に反映されます。

(※2)先物取引における相場の変動に基づく計算上の利益と損失を合計した金額、いわゆる「値洗い損益」になります。

■ 注文・建玉余力の計算式

注文・建玉余力 = 受入証拠金総額 - 証拠金所要額 - 注文済みの証拠金所要額

■ 証拠金不足の計算式(追加証拠金)

- ・毎営業日、夕方のバッチ(日中立会終了後の繰り越し処理)で、お客様の全建玉及び当該営業日の状況等に基づいて、受入証拠金総額、証拠金所要額等を算出します。この結果、受入証拠金総額が委託者必要証拠金を下回った場合は、証拠金不足額が確定します。
- ・証拠金の不足が発生した場合、お客様は翌営業日正午までに不足金請求額を入金していただく必要があります。指定日時までに、入金を確認できなかったときは、全ての建玉を当社にて決済できるものとします。

『 受入証拠金総額 < 委託者必要証拠金 』となった場合、
『 証拠金不足額 = 委託者必要証拠金 - 受入証拠金総額 』となります。

追加証拠金の確認について

Web 画面ログイン後、上段横に並ぶメニューの「口座情報」→「口座照会」から画面右の「処理必要不足額」で不足金額(追加証拠金)が確認できます。

大阪取引所における証拠金の計算・管理について

当社において、商品関連市場デリバティブ取引と日経225先物取引の両方を取引される場合の取引の証拠金は別々に計算・管理されます。そのため、いずれか一方の取引において相場変動による証拠金が不足し、証拠金の追加差入れ又は追加預託が必要になる場合があります。